

一年間を振り返ろう

長期間にわたるあさがおの栽培活動ですが、最後の片付けまでできることをしっかりと褒めて、自信をもたせることが大切です。また、一年間を振り返る活動は、入学当初の「種を植えた時」より様々なことができるようになった自分の成長に気付くためには、とてもいいチャンスとなります。

ここが
ポイント

お世話の様子を写真で振り返ろう！

お世話の様子の写真は春の様子から順にテレビに映し、「あのとき大変だったよね。」「〇〇さんの芽が出たときうれしかったよね。」などと、お世話の苦労や嬉しかったことを楽しく話しながら見るようにすると、みんなでお互いの頑張りを認め・共感する大切な学習の時間になります。

ここが
ポイント

「観察カード」で振り返ろう！

あさがおタイムのカードはテープで留めて、本にしていきます。大切なのは記録化することではなく、振り返ることで、自分の成長に気付いたり、あさがおへの愛着を深めたりすることです。きれいな本や立派に製本する必要はありません。

子ども自身がカードをテープでつなげていくと、どんどん長くなり、今までの観察のがんばりが子どもにもはっきりと分かります。

最後に、大事なあさがおに今までの頑張りを報告したり、お礼の言葉を書いたりするなど、自分の思いを手紙につづって、本を完成させます。大きな満足感とあさがおへの親しみ・愛着を感じて単元を終わることができるように時間と場を準備したいものです。



折っていったら本が完成！

見て！見て！こんなに長くなつたよ。

気付き！

自分の観察カードを繋げていく作業をしながら、子どもは自然と自分のカードを読み返していきます。そのうち「先生、5月の僕、ひらがな間違ってたよ。」なんて報告してくれる子も登場します。ここはチャンス、「そうだね、まだひらがなも習っていなかったもんね。今は漢字も書けるようになったね！」と返してあげると「絵も上手になったよ。」「重い鉢も一人で持てるようになったよ。」と、自分の成長に気付くにつながります。

さらに「最後のあさがおさんへのお手紙にできるようになったことを報告してごらん」と促すと、どの子も張り切って自分のがんばりやできるようになったことを書いていきます。

あさがおのお世話に自信をもって「来年の一年生にも世話の仕方を教えてあげよう」という意欲にもつながります。